

科目名称：	美文字演習（美術学科）	
担当者名：	氣谷 裕美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
コミュニケーションツールとして活用が期待される筆文字・アート書道でイメージ力と表現力を養い、感性豊かな手描きの筆文字を描けるようにする。さまざまな描き方や技法を使いより表現力と描写力を高める。古代文字は文字の起源や歴史を学びながらアート化する楽しみを体得し独創性を養う。名前の詩はインスピレーションや洞察力を駆使し言葉の贈り物を作詩できるようにする。		
授業の達成目標・到達目標		
言葉の力、文字の力で普段伝えられない気持ちや思いをオリジナリティ溢れる文字や文章にして表現できるようになる。多種多様な描き方を習得することでクリエイティブな可能性を広げる。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP(2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP(4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	積極性	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)					0
美術DP(3)					0
美術DP(4)			80	20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	デザイン業	20年
	筆文字・アート書道	7年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 基本的な描きかたと文字のバリエーション	筆文字アートの種類について理解しておく	30分
第2回 イメージ力を養い、表現力を高める描き方(情景や物の形を描写)とオリジナル描写課題完成	描き方の練習(イメージの予習復習)をしておく	30分
第3回 イメージ力を養い、表現力を高める描き方(感情を描写)オリジナル描写課題完成とハガキ作品完成	ハガキサイズでの表現をイメージしておく	30分
第4回 イメージ力を養い、表現力を高める描き方(動詞を描写)字間や行間を調整しながら色紙課題作品を完成	色紙サイズでの表現をイメージしておく	30分
第5回 にじみ・ぼかし・しぶき・破墨法の技法を使った文字の描き方。ハガキサイズ課題作品を完成	水墨画の技法や筆の使い方を調べておく	30分
第6回 かすれ・スパッタリングの技法を使った文字の描き方。特殊な文字の描きかた。ハガキサイズ課題作品を完成	筆さばきや墨絵の技法を調べておく	30分
第7回 習得した技法と一筆混色法を使い、墨と絵の具で表現する。ハガキサイズ課題作品を完成	水彩画や顔彩での描写テクニックを予習復習しておく	30分
第8回 習得した技法で文字とイラストを一体化させた筆文字をデザインする。ハガキサイズで作品完成	今まで習得した技法と筆使いや水分量調節を予習復習しておく	30分
第9回 たらし込み技法を使った文字の描き方。文字+模様・文様のオリジナルハガキ作品完成	琳派の描写を調べておく	30分
第10回 古代文字アートを描く(漢字編) ハガキサイズオリジナル作品を完成させる。ディスカッション可	漢字の字源を調べておく	30分
第11回 古代文字アートを描く(世界編) ハガキサイズオリジナル作品を完成させる。ディスカッション可	トンパ文字の存在を理解しておく	30分
第12回 古代文字アートと異質素材を使ったオリジナル作品を完成させる。ディスカッション可	描きたい古代文字を調べておく。使いたい素材を揃えておく。	60分
第13回 太筆で技法を使いより表現力のある描き方オリジナル色紙作品完成	以前のイメージ力と表現力の課題を見直す	30分
第14回 グループワークで名前の詩の資料づくり。ハガキサイズのオリジナル作品を完成	言葉の資料づくりの参考にする詩集・文集・歌集等を選考し持参する。	30分
第15回 名前の詩(色紙サイズ)のオリジナル作品を完成。ディスカッション可	詩のイメージを考えてまとめておく。気に入った詩集・文集・歌詞があれば持参する。	60分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、復習・予習の内容を練習し小レポートにまとめておくこと。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 提出する課題作品 80%。 授業への積極的姿勢と取組み 20%。		
課題に対するフィードバック		
提出課題は評価しコメントを添えて返却		
教科書・参考書		
プリント配布。参考書については必要に応じて紹介する。		